

大学院体験記

大久保 陽策 (平成 22 年卒業)

私は県立広島病院で初期研修の後、2012 年に循環器内科に入局し、土谷総合病院から後期研修がスタートしました。土谷総合病院時代、塩出 宣雄先生、林 康彦先生からカテーテル操作の基礎、シネ画像の読影法を叩き込まれました。また日々の臨床に関連したテーマを持って研究を始め、それを形にするまでの過程の重要性、面白さも教えて戴きました。村岡裕司先生は、若手を集めて週 1 回の不整脈カンファレンスという形で、心内電位、不整脈の世界の奥深さを教えて戴きました。その後、3 年過ごした JA 尾道総合病院では、若手の主体性を尊重し、色々な事に挑戦する機会を与えて戴きました。我慢しながら辛抱強く見守り、ご指導戴いた森島 信行先生、上田 健太郎先生、尾木 浩先生には大変感謝しております。

循環器内科の医局人事では卒後 6-7 年目を目途に帰学が慣例となっておりました。私は、学位取得の具体的な目標があったわけではありませんでした。臨床をある程度行ううちに、何かと行き詰まる事も多くなり、大学で論理的な思考、研究や、1 つの症例に徹底的に向き合う時間が必要である事に気づきました。それで卒後 8 年目で帰学した訳ですが、大学院へ進学した際には、不整脈グループを選択させて戴きました。それまでの研修で、頻脈性不整脈のアブレーション治療のプロセス、正しく診断し、治療がうまくいけば根治に導けることが楽しいと感じていたからです。広島大学の不整脈グループは、県内外から難治性不整脈の患者さんが多く紹介されてきます。市中病院ではあまり経験できない症例があり、大変勉強になりました。

大学院での私の研究テーマは、心房細動の早期発見のための心拍計アルゴリズムの開発と、心房細動発症における遺伝的因子と臨床背景を組み合わせたリスクモデル構築でした。心房細動は残念ながらおよそ半分の方が無症候性と言われていて、最大の合併症である脳梗塞は社会的な問題となっております。臨床に結び付く意義ある研究をさせて戴いた事、海外学会での発表、シンポジウムでの発表など貴重な経験をさせて戴いた事は、大きな財産になりました。至らない点が多く、ご迷惑をお掛け致しましたが、温かくご指導戴きました中野 由紀子 教授、木原 康樹 前教授 (現 神戸市立医療センター中央市民病院 院長) には、心より感謝申し上げます。

大学院は卒業しましたが、まだまだやり残した事や挑戦したい事がありますので、この学びと創造にあふれる場所で、もう少し頑張ってみようと思います。

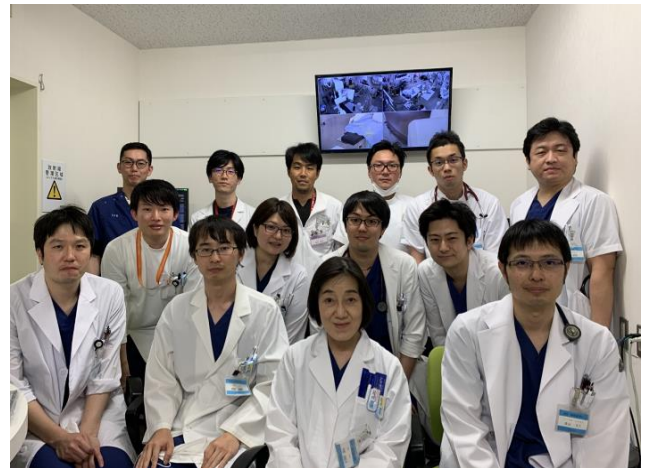


写真 左上 AHA Scientific Sessions 2019 Philadelphia 発表の様子

右上 AHA Scientific Sessions 2018 Chicago 東 幸仁 教授 との記念撮影

左下 AHA Scientific Sessions 2018 Chicago 木原 康樹 前教授 との記念撮影

右下 広島大学循環器内科 不整脈グループ集合写真 (前列中央 中野 由紀子 教授)